



しめ縄プロジェクト2023

しめ縄づくりから世界をつなぐ！

「しめ縄プロジェクトとは？」

お正月の意味を学び、国産の稻わらを使ってしめ縄づくりを楽しむ文化教育活動です！

目的

当プロジェクトを通じて自分たちの国に関心を持つ機会を創出し、そうした伝統を学び、継承できる教育体制をこの社会に構築することを目指しております。

概要

当プロジェクトは、お正月の意味を学ぶ「**お正月講座**」と「**しめ縄づくり**」が体験できる**ワークショップ**を基本プログラムとしてこれを全国各地で開催しております。



お正月講座（約10～50分）



しめ縄作り（約50～70分）

プログラム全体（約60～120分）※参加人数・年齢によって変わります

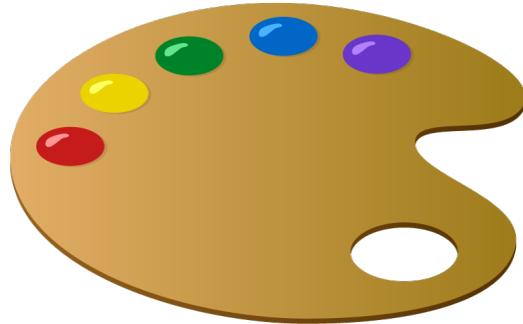
TEAM
EXPO
2025

いどもう。みらいに。
“共創チャレンジ”

しめ縄プロジェクトは、大阪・関西万博の共創チャレンジ登録事業となり、現在、大阪観光局のパートナーとなっております。

一般社団法人国際教養振興協会について

なぜ、国際教養にドメスティックな文化活動必要なのか？



国が際立つ社会



代表理事 東條英利

- 神社文化評論家・神社情報ポータルサイト「神社人」代表
- 第40代内閣総理大臣東條英機直系曾孫
「日本人の証明」「神社ツーリズム」他、神社関連書籍の執筆・監修多数。

香港への駐在経験を機に、外国人から日本のこと尋ねられてもきちんと答えられない日本人が多いことに気づく。他者から信用されるためには、安易な同調ではなく、自分自身の存在や立場を明確に伝えられる教養が重要と考え、まずは自国に関わる伝統・文化・歴史を学ぶ環境・機会づくりを目的とした国際教養振興協会を設立する。

パレット上に様々な色彩が彩られる社会、これが国際社会。しかし、全ての色を混ぜ合わせると灰色になる、これがグローバリズムの怖さ。

本当の国際社会に必要なのは、外国語や海外事情よりも、まず自分自身（出身国の文化や歴史）を話すことのできる教養力！



SHIMENAWA

CJPF ICPAは内閣府クール・ジャパン官民連携プラットフォームの構成員です。

なぜ、今、しめ縄プロジェクトなのか？

1

日本のお正月は日本全国各地で迎えられる国民的行事。

▶▶▶日本人にとって共感性の高い身近なテーマ

2

お正月は本来、豊作の神・年神様を迎える、一年の健康を願う伝統的風習。

▶▶▶日本の伝統的価値観が凝縮された風習

3

豊作の神を迎えるはずが、市販のしめ飾りが稻わらではなく雑草が代用されている現状。

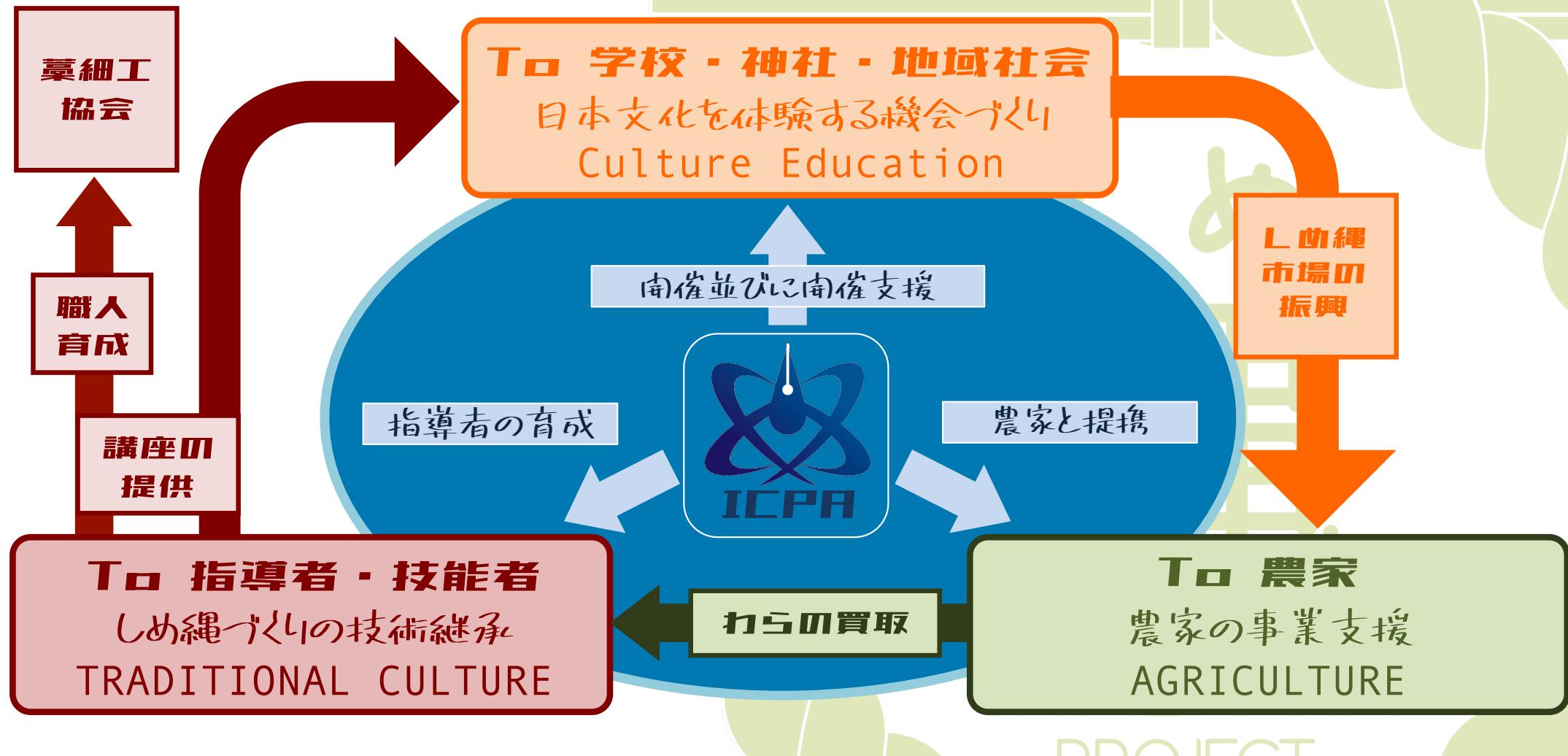
▶▶▶風習の目的が忘れられ形骸化する実状

お正月を取り巻く現状は、**日本人の伝統に対する理解低下の象徴！**

お正月の国民的理解が進めば、日本の伝統は必ず復活する！

「曲縄プロジェクト」のグランド・デザイン

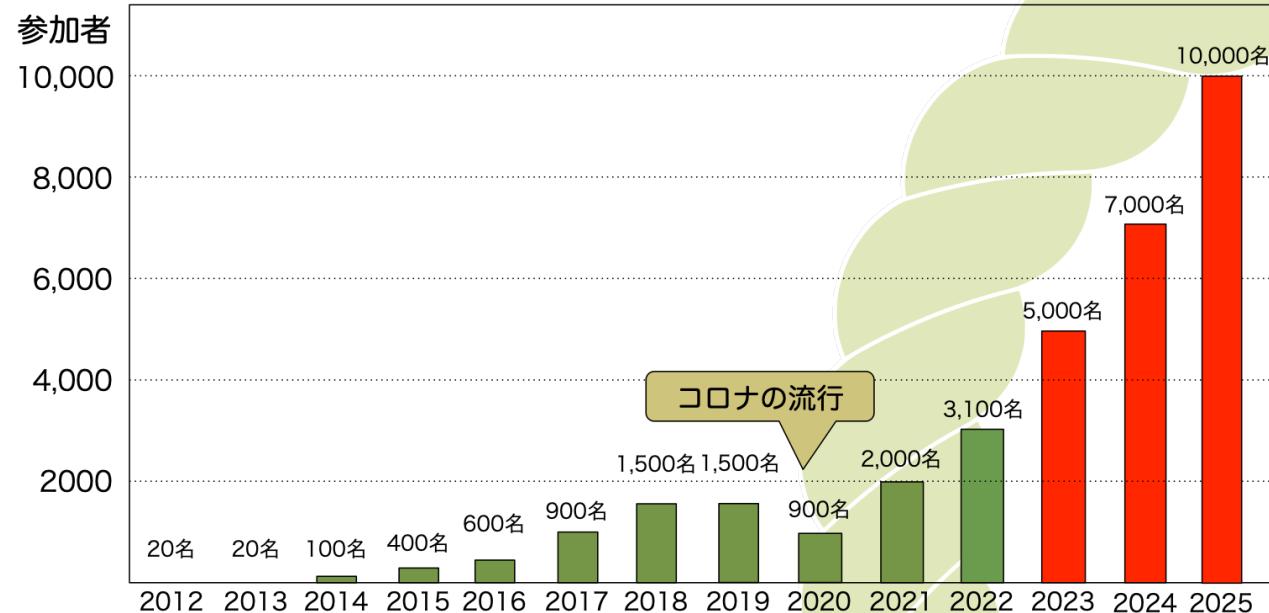
ヒトと文化と産業が循環する三位一体の社会事業モデル創造を目指して！



「ぬ縄プロジェクト」の歩み

全国の神社をはじめ、小学校、地域コミュニティ、外資系企業など様々な場所で開催！

2022年度は単年で全国約3,100名の方が参加！



全国25都道府県で開催！

米国LAでも開催！

全国10校以上の学校で開催！

全国30社以上の神社で開催！



2025年までに1万人が参加するプロジェクトへ！

「曲縄プロジェクト」の開催実例

学校関係

東京：北区立王子小学校・北区立堀船小学校・北区立梅木小学校・北区立豊川小学校

大阪：大阪市立聖賢小学校

奈良：天理市立柳本小学校・天理市立櫟本小学校

福岡：リソナンホール・スクール小学部

岡山：岡山学芸館清秀中学校 他

2023年新規予定

東京：北区立王子第二小学校・北区立有吉二小学校 他

授業の一環としてプロジェクトを採用する公立小学校が増加！

神社関係

湯島天満宮

稻毛神社

浅草神社

上目黒氷川神社

香椎宮

富山縣護国神社

芦屋神社

若宮八幡大神宮

石浦神社

早稲田神社

藤島神社

富山縣護国神社

鴨居八幡神社

岡山神社

河尻神宮

石上神宮

広島護国神社

住吉大社

宮地嶽神社

熱田神宮 他

2023年新規予定

靖国神社

清見原神社

高千穂神社

金蛇水神社

30社以上の神社での開催・地域コミュニティの再生へ

その他

一般企業研修

特養施設

保育園事業研修

NPO事業者

LA

2023年新規予定

某大手外資系企業・メキシコ・サンフランシスコ 他

国内のみならず海外でも開催・様々な社会・文化団体ともコラボレーション！

私たちのチャレンジ！

1

全国の学校でしめ縄プロジェクトを教育の一環として提供できる環境を目指します！

東京都北区では、地域住民参加型の小学校開催モデルを構築中で、2023年には北区だけで、約10校近くの小学校が授業の一環として当プロジェクトの導入を予定しております（5年生対象）。大阪や奈良、兵庫といった他地域での開催はもちろん、私立の進学校での採用事例も増えており、学校における文化教育の導入を進めて参りたいと思います。

2

地元の有志が神社へしめ縄を奉納できる環境を目指します！

近年、各地の作り手が高齢化などで激減しているため、化学繊維のしめ縄導入が進む神社においても、当プロジェクトを推進することで、地域住民や崇敬者による交流機会の促進に役立て、地域社会の活性化を目指します。

3

海外の方に体験いただくことで日本の伝統に対する理解を深めて参ります！

2023年には米国サンフランシスコほか、メキシコの名門メキシコ国立自治大学（UNAM）での開催も決まり、海外での開催を通じて、日本の伝統的価値観の理解増進に努めます。同時にそうした姿を日本の子供たちに伝えることで、自分たちの持つ文化の力に魅力を感じてもらう体制を構築します。また、訪日外国人旅行客向けのインバウンド事業も検討しており、神社を新たな観光資源として、その活性化モデルの構築を目指します。現在、大阪の清見原神社さまをインバウンド事業のモデル一号としてを進めております。

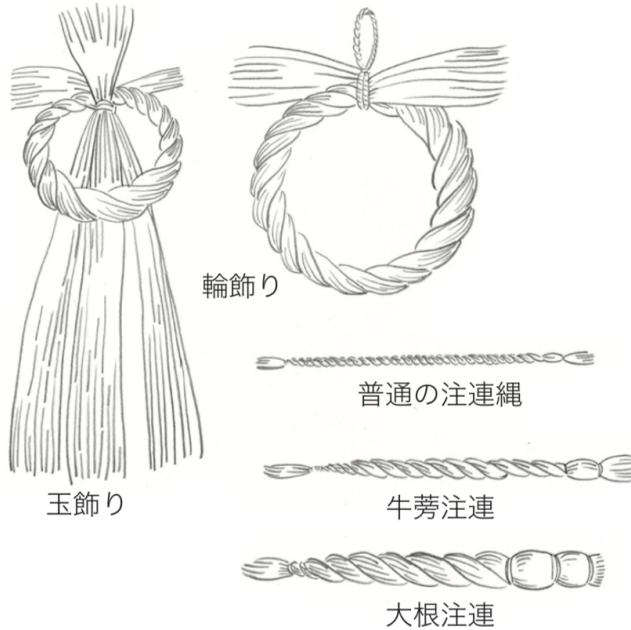
4

一般企業が日本の伝統を支援する社会を目指します！

かつてはこうした文化的な風習というものは一般企業によって支えられてきた部分があります。私たちとしてはこうした企业文化風土を新しい取り組みの中から育んで参りたいと思います。現在、外資系大手企業での取り組みも進展中。

補足1：しめ縄とは？

しめ縄は悪い気や靈の侵入を防ぐとされた太古から続く伝統的意匠となります。



その形状は、棒状・ひも状・丸型のものから動物の姿を象ったものまで、実にさまざまあり、その始まりは神話の時代より続きます。

素材は稻わらをより合わせて作り、神社の入り口や建物、特定の大木や巨石、家の玄関や神棚など神聖とされる場所に飾り付けることで悪い気や悪い靈の侵入を防ぐ**結界**のような役割があると考えられています。



日本ではお正月にはこのしめ縄に様々な飾り付けを施して、玄関に飾って新年を迎えます。

日本の神道文化と
農業文化の象徴！

SHIMENAWA
PROJECT